



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(財)日本友愛青年協会

〒112-0002 東京都文京区小石川 1-10-13 小石川文天ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@qj8-so-net.ne.jp

http://www.yuayouth.or.jp

発行人：川手正一郎

編集人：鶴巻克雄

隔月1回 10日発行

購読料

年額 3,000円

特集

友愛山荘

友愛活動の原点 関連資料も充実 研修宿泊施設として活躍



軽井沢友愛山荘は、昭和二十九年(一九五四年)の開設以来、場所を変え、形態も研修所、ユースホステルなどの変遷を経て平成七年(一九九五年)改築の竣工を機に再出発した。以後増築も完了し現在の建物が出来上がり、毎年多くの利用者... 泊施設として着実な活動の軌跡を残している。利用者の声を交えて友愛山荘の活躍をここにご紹介したい。

軽井沢友愛山荘の出発は昭和二十九年(一九五四年) 順次閉鎖あるいは地域に譲り渡すなど、ユースホステルの草分けとしての活動を閉じて行った。 軽井沢友愛山荘は、日本友愛青年協会(元 友愛青年同志会)の創始者である鳩山一郎先生がこよなく愛された地「軽井沢」にあり、また現在の場所は鳩山一郎先生が公職追放を受けた時期、晴耕雨読の生活をされていた所縁の場所でもあることから、当協会の事業の柱、活動の原点ともなるべき場所として継続され、現在に至っている。

昭和三十三年(一九五九年)現在の地に新たな建物を建設、ユースホステルの国際基準に合った、我が国随一の本格的ユースホステルとして活動を開始した。その後各地に友愛山荘が建設されたが、時代の変遷

くの参加者を得て、会場となった友愛山荘食堂は人で溢れていた。

昨年の国際オーボエコンクールを機に、コンサート調律師宮沢基一さんの手で調律され、見事な音色を奏でようになった食堂のピアノは大活躍である。島崎先生の指揮のもと、声を合わせての合唱、ソロでの堂々たる歌唱とミニとは言えない内容のコンサートとなった。平成十四年第十三回友愛ドイツ歌曲コンクール(二〇〇二年)第一位入賞者の伊藤裕美(旧姓遠山)さんも参加、見事な歌唱を披露した。

年齢もまちまち、性別も違うドイツ歌曲愛好家と音楽大学卒業生が集い、音楽を中心にして軽井沢でコンサートを開催するという、友愛ならではの活動が繰り返された。

声を合わせ、心を合わせ、ドイツ歌曲での繋がりも広がっている。友愛ドイツコンクールで一位の伊藤裕美さんと島崎先生(写真下)



一心に練習に励む研修生の皆さん

ゆったりを実感

白土文雄

友愛山荘の魅力は、何といても食事の旨さと清潔感だ。

食事が旨いといっても、決して洒落た贅を尽くしたものではない、作り手の心がこもっている美味しさだ。美味しいものを食べてもらいたいという、思いが伝わってくる。一つ一つが手作り、人の思いがある。そして完璧な清潔感。チリ一つないという言葉があるが、まさにそれを実践している。しかし無機質なそれではなく、温かみの伝わる清潔感である。それが証拠に、ちょっとした空間に何気なく活けられている小さな花は、気がつけば庭に咲いている草花である。

清潔な環境で美味しい食べ物にありつける日々、これをゆったりと呼ぶに、なにをゆったりと言うのだろうか。

心のゆったりも「友愛」の一つの要素なのだろう。音楽の研修で使わせていただいている立場から、一つ欲張りな事を言えば、ピアノがもう一台欲しいところだが。

緑の大切さ

小野崎純

友愛山荘は見事な緑に囲まれています。手入れの行き届いた芝生、その周りには木々が木陰を作っています。この様な環境は、近頃少ないのではないのでしょうか。毎年軽井沢でひと夏を

▼今年の夏の話題は、何といても「暑い」に尽きる。と書いてはいるが、現に今も暑い。夏は暑いものと相場が決まっていますが、今年の暑さは空前絶後といえるだろう。梅雨明け以来、熱帯夜、猛暑日が何日続いたと報じられ、すべてが記録破りだ。▼暑さの中での高校球児の活躍は、汗もまた良いものだと思っていたが、今年ばかりは流石に気の毒になった。それでも初の優勝を果たし、深紅の優勝旗がやってきました沖繩県は、更に熱さを増したことだろう。▼最近では、サッカーも熱くなる要素である。ワールドカップ開催年であった今年、天候の暑さのまに、サッカー熱で、日本中が熱くなった。編集部は、あの広いグラウンドを、一つのボールを追いかけて走りまわる姿を見て、一体何が面白いのだろうと思っていたが、今年のワールドカップのおかげで、サッカーに対する見方が少しは変わったように思う。▼考えてみれば安上がりと言っては変だが、ボール一つで楽しめる、経済的なスポーツである。なるほど発展途上国では、子供たちがサッカーに興じているという報道も頷ける。日本でのサッカーの浸透は、そんなに歴史が古いわけではないのに、世界の舞台にたてるまでになっているというのも、サッカーがそれだけ熱中できるからだろう。▼何にせよ、世界が一つになって、国境を越えて人々がはしゃいでいる姿は、平和の象徴として良いものである。(えふ)

過ごす私でさえそう思います。正面には大きな紅葉が枝を広げ、夏は木陰を、秋には見事な彩りを見せています。この様に沢山の緑に囲まれているのですから、鳩山一郎・薫ご夫妻の銅像もさぞかしご満足なことでしょう。

軽井沢での夏を終え、東京に戻ると緑が創りだしていた「心地よい空気」を再確認することとなります。滞在中は目に優しい緑を楽しんでいるばかりでなく、木々が空気も創り出しているのだという事を思い知らされます。しかし、軽井沢でも乱開発の為、年々、緑、樹木が少なくなっているのが現状です。そんな中で、友愛山荘の緑の空間は心身共にリフレッシュさせてくれます。

先日伺った話では、日本友愛青年協会は中国での植林活動も行っているとか、緑の大切さを理解してのことでしよう。友愛山荘に緑がいつまでも生き活きとして私達を癒してくれることを願っています。

また、横田ご夫妻からは、「私どもも再度おたずねしたい」との嬉しい言葉をいただき、機関紙「友愛」への掲載もサインを添えて快諾をいただいた。

友愛婦人会 恒例夏の研修会開催
毎年友愛山荘で夏の研修会を開催している友愛婦人会は、今夏も八月二十五日(水)より、八月二十七日(金)まで、友愛山荘貸切での研修会を開催した。

種田英子副会長、倉林薫枝副会長、諏訪あさ副会長をはじめ、各地区より多くの参加者を得て研修会は成功裡に終わった。貸切バスで東京を出発した一行は、昼過ぎには友愛山荘に到着、有名な常盤館へ、道中の疲れを落とし向かう。今夏の暑さは軽井沢も例外ではない。汗を落とし、すっきりとした一同食堂に集合。大川米子幹事長が、一郎先生・薫先生の思いから始まった友愛山荘の意義と婦人会の友愛活動について挨拶した後、懇親食事が始まった。今後の方針、



「仲間」の良さを再確認 語らいながらの楽しい食事。

滞在中は、大学で学んだだけとは思えない、流暢な日本語を駆使し、山荘を訪れた方々との交流を体験する。(詳細記事は次号掲載)

秋の予約受付中!!

軽井沢友愛山荘は、好評稼動中です。また、ご利用いただいた大勢の方々から、お褒めの言葉を沢山いただいております。これはスタッフにとっても何よの励みになります。

現在十月以降、まだまだ空室はございます。秋の軽井沢は見事な紅葉と、澄んだ空気を楽しんでいただけ、夏とは違った魅力に溢れています。是非秋の軽井沢をお訪ねください。

友愛山荘には、「友愛理解のために」をはじめ、友愛を理解するための書籍などを取り揃えております。ご利用ください。

ご利用の際は、お電話にて空室状況をご確認ください。その他お問い合わせは、お気軽に事務局まで。

横田 滋
横田 早紀江
22年7月22日



横田滋さん・早紀江さんご夫妻(写真前列)を囲んで、山荘スタッフと記念撮影

ぎには友愛山荘に到着、有名な常盤館へ、道中の疲れを落とし向かう。今夏の暑さは軽井沢も例外ではない。汗を落とし、すっきりとした一同食堂に集合。大川米子幹事長が、一郎先生・薫先生の思いから始まった友愛山荘の意義と婦人会の友愛活動について挨拶した後、懇親食事が始まった。今後の方針、

た後、懇親食事が始まった。今後の方針、



ネパールより研修生 八月十二日(木)友愛山荘に、ネパールよりの研修生ヘマンタ・シルワルさんが到着した。ヘマンタさんはカトマンズ市ティンタナ村の出身。日本友愛青年協会が研修生として招聘した青年で、九月末日まで友愛山荘に滞在する。

利用料金表 (団体料金はお申し込み時の人数)

個人利用料金		団体利用料金		
		5~9名	10~15名	16名以上
一般	10,000	8,000	7,000	6,000
会員紹介	9,000	7,000	6,500	6,000
賛助会員	7,000	6,000	5,500	5,500
学生	7,000	6,000	5,500	5,500

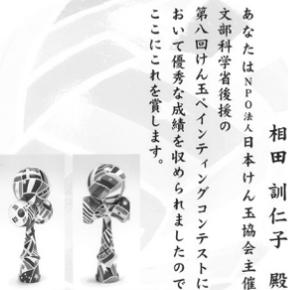
NPO法人日本けん玉協会主催
第八回けん玉ペインティングコンテスト
(財)日本友愛青年協会賞相田さん受賞
第五回受賞鈴木健心君小学生の部一位受賞

八月二十九日(日)午前十時より、サンシャインビル泉の広場において、第八回けん玉ペインティングコンテストの表彰式が開催された。四千を超える応募から選ばれた作品一九六点が展示され、全国からの入賞者が集まり、会場は華やか

な、にぎわいをみせている。日本友愛青年協会賞を受賞したのは、相田訓仁子さん、万国旗をモチーフにした色鮮やかな作品である。その他団体賞を含め、受賞者には福田八州雄評議員から賞状が手渡された。

賞状

日本友愛青年協会賞
相田 訓仁子 殿
あなたはNPO法人日本けん玉協会主催 文部科学省後援の 第八回けん玉ペインティングコンテストにおいて優秀な成績を収められたのでここにこれを賞します。



平成二十二年八月二十九日
財団法人日本友愛青年協会
理事長 鳩山 由紀夫
NPO法人けん玉協会
会長 丸石 照機



小学生高学年の部一位、鈴木健心君(左)と福田評議員(右)後ろには見事な入賞作品が並び



文部科学大臣賞受賞の坂辻綾香さん。大きなけん玉のトロフィーを抱えて、はにかんでいる



日本友愛青年協会賞受賞作品

第21回友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールご案内

前号でのご案内の通り、本年度も友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールを開催いたします。現在参加者の応募受付を前に、会場の手配など、順調に準備は進んでおります。

二十一回を迎え、年々評価の高まっているコンクールです。皆様是非お誘い合わせの上ご来場ください。

本選会のチケットは、各プレイガイド、チケットぴあなどでもお求めいただけます。詳しくは事務局までお問い合わせください。

— 第一次予選(無料) —
十月二十五日(月)
文京シビック小ホール
午前一〇時三〇分〜二〇時
— 第二次予選(無料) —
十一月五日(金)

旧東京音楽大学音楽堂
十五時〜二〇時
— 本選会 —
十二月一日(金) (有料)
旧東京音楽大学音楽堂
十六時四〇分
チケット 二千円(一般)
千円(学生)

*チケットは全席自由席
*半券は、聴衆者賞の投票用紙と引き替券となります

鳩山友愛塾

交歓会開催 一期修了生 二期修了生 一堂に

音羽の森に再会の笑顔あふれて 『友愛の歌』歌声も高らかに合唱

七月三十一日(土) 鳩山

井上和子塾長挨拶

会館において、鳩山友愛塾 一期生・二期生(ともに修了生)交歓会が開催された。久しぶりに顔を合わせた同期生同士、あるいは初めて会う先輩後輩、塾の会(修了生が運営する会)で、すっかり顔なじみとなった者同士など、状況は様々ではあるが、すべての修了生を「友愛」の言葉が紡ぎ、たちまち和気藹々とした空間が広がった。

またこの交歓会には、鳩山由紀夫塾長代行(前総理大臣)が出席、会場は大いに盛り上がった。今夏の激しい暑さの続いている七月三十一日、夕暮れになればとの配慮から交歓会は午後五時より開催された。緑に囲まれた鳩山会館も、今夏の激しい暑さに、涼しいとまでは気温が下がらない。参加者は汗を拭きながら、音羽の坂道を上ってきた。



井上和子塾長

皆さんこんにちは、そしておかえりなさい! 皆さんにお会いできるのをとても楽しみにしていました。今、こうしてお元気なお顔にお会いできて、とても嬉しいです。今日は、授業ではなく、堅苦しいことは抜きに、大いに楽しんでください。



鳩山由紀夫塾長代行

また、塾長は挨拶のなかで、近況報告として自ら制作協力した映画『スーパ・オペラ』ができあがった事にふれ、「人と人の出会い、結びつきが描かれています。友愛の心と通じるものがあると思います」と、制作協力の思いを語った。(四面に詳しい映画紹介記事を掲載)

続いて、公務多忙のなか、前総理大臣の登場とあって、修了生は大喜びである。鳩山由紀夫塾長代行挨拶

皆さんが塾生であったときに申し上げましたが、これからも皆さんの生活の中で、友愛を活かした



参加者への大きなプレゼントとして、井上和子塾長、鳩山由紀夫塾長代行、川手正一郎塾長補佐、鶴巻克雄

活動を続けてください。それが日本を前に進める力となります。そして、私自身も友愛を大切に、これからも精進して参ります。全員が三十秒スピーチ



参加者全員が、緊張しながらも笑顔で30秒スピーチを

「おふくろさん」を熱唱 次ぎに用意されていたのは、更に大きなプレゼントである。鳩山由紀夫塾長代行が、カラオケで「おふくろさん」を熱唱したのだ。歌手森進一のモノマネ風に声を変え、腰をかがめて歌う姿に、塾長も大笑い、塾生からは大きな大きな拍手が贈られた。



昔取った杵柄、青春の歌を声に合わせて

談笑する者、最近のごきごきを話し合う者、和やかな集いはあつという間に時間が過ぎ、閉会の時間となった。鶴巻克雄運営委員が、閉会の言葉を述べ、会を閉じ、それぞれ再会を約して帰途についた。



「おふくろさん」を熱唱。井上和子塾長も大笑い



楽譜を見ながら、全員で「友愛の歌」を合唱。心は一つに

友愛の歌 来 橋中翁 作詞 詞曲 渡辺曉雄 作曲

1. くもひらきあさひはのほろ 2. よもよと 3. はなは 4. みよと

1. せりかう 2. たんじゆ 3. みちしじ 4. わが同志

友愛の歌 来 橋中翁 作詞

一、くもひらきあさひはのほろ 二、よもよと 三、はなは 四、みよと

わが同志 友愛の歌 友愛の歌 友愛の歌



友愛 ほんだな 番外編

映画『スープ・オペラ』完成!

10月2日(土)より全国各劇場にて公開

「スープ」という言葉から、人は何を連想するでしょうか。クリーミーなコーンスープ、黄金色に澄んだコンソメスープと、具体的にスープを思い浮かべる方もあるでしょう。寒い日の温かいスープ、暑い夏の日の冷たいスープも捨てがたいと、思いを巡らせる方もあるでしょう。発想した言葉から更に連想が進み、思い出や味の記憶が絡み一つの物語を思い浮かべていることでしょうか。そんな一人ひとり発想したスープがオペラ(ドラマ)になっていくのが、映画『スープ・オペラ』です。日常の中で起きる小さな出来事、でも忘れ得ない人生の糧、なぜなら人と人が結びついているから、一人一人の人生はオペラ(ドラマ)です。



映画の中にも様々なスープが登場します。要となつているのは、主人公ルイ(坂井真紀)の叔母トバちゃん(加賀まりこ)が丹精込めて作る「鶏ガラのスープ」です。肉屋から只同然で譲ってもらった鶏ガラを、トバちゃんは丁寧にアクを取り、美しく澄んだスープに仕立てています。「これさえあれば生きていかれるのよ」トバちゃんの言葉に、スープの役どころが象徴されています。

幼いころからルイはトバちゃんの作るスープを食べ、慈しみ育てられていました。ルイがトバちゃんを暮らすようになった経緯は、物語が進むうちに解き明かされます。映画は、トバちゃんの突然の結婚宣言から始まります。いきなり独り暮らしを余儀なくされた三十五歳独身、大学図書館勤務のルイはどうなるのか、と心配する間もなく放浪の画家トニーさん(藤竜也)、笑顔を絶やさない青年康介(西島隆弘)が登場し、三人での同居生活が始まります。このテンポの良さは日本映画には珍しい環境、商店街、古き佇まい

スープ・オペラ

Soup OPERA

映画『スープ・オペラ』公式ホームページ
<http://www.soup-opera.jp/>

前号のこの欄でご紹介した本の映画が完成しました!

の日本家屋、すべてがメリゴーランドのように、巡り巡って『スープ・オペラ』は出来上がっています。「友愛」と源流を一つにする流れなのではないでしょうか。

スープを一口、口にした時の誰かがちよつと微笑んでしまう、ほつとする気持ち、そんな思いに満たされる映画です。お近くの劇場で、是非ご覧いただきたい作品です。

十月二日(土)より全国の劇場にて公開
 監督・瀧本智行
 原作・阿川佐和子
 脚本・青木研次
 出演・坂井真紀(ルイ)・西島隆弘(康介)・加賀まりこ(トバちゃん)・藤竜也(トニーさん)・萩原聖人・平泉成・鈴木砂羽・入江若葉・品川徹

公開劇場など、詳しい情報は公式ホームページでご案内しております。

第十七次 湖北省シキ県(三峡ダム上流)にて行われます。また第十八次は、

第十八次は、平成二十三年の二月上旬を予定しています。

詳細は十月中旬に決定いたしますので、是非参加をご検討ください。詳細については、およびその他ご質問は、お気軽に事務局までご連絡ください。

第十七次三峡ダム・第十八次アモイ市 植林訪中団参加者募集

日本友愛青年協会では、公益事業の一つとして毎年中国に於ける植林活動を行っています。

今年度も第十七次、及び第十八次の訪中団を結成し、実施することが決まっています。

第十七次は、湖北省シキ県(三峡ダム上流)にて行われます。また第十八次は、福建省アモイ市は、経済特区にも指定されており、活動的に躍進する中国を実際に体験する良い機会となるでしょう。

第十七次は、十二月中旬、第十八次は、平成二十三年の二月上旬を予定しています。

詳細は十月中旬に決定いたしますので、是非参加をご検討ください。詳細については、およびその他ご質問は、お気軽に事務局までご連絡ください。

国際交流事業 オーストリア姉妹団体より招聘 協力参加出来る方を募集します

当協会と姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟(OJAB)とは、国際交流活動を共に行っていきます。当協会からは、リートコンクールで一位入賞者を派遣し、ウィーンでのコンサートを開催。またOJABからは、二名の派遣を受け入れ、日本の文化の学習他、友愛の活動に参加する機会を創り、その成果を挙げていきます。

本年度も十一月にOJABより二名の来日が予定されています。

今回、この際のアテンド(案内・解説・お世話等)要員を募集致します。

条件日時は左記の通りです。国際交流の絶好の機会です。振るってご応募ください。

期間：十一月十三日(土)～十一月十九日(金)

内容：国内案内、空港出迎え、見送り等(昨年度は広島、京都へ同行)

時事川柳

服部迪夫 作

— ゲゲゲの女房
女房はキラリと光るピアノスト

— 白鵬詣で
連勝の団子を食へに行くフアン

— 秋刀魚不漁
築地から秋の気配がかくれんぼ

— 郵便不正
郵便の切手をなめるフロツピー

— あの世でも
黄泉の国啓と桂樹が立て看板

機関紙『友愛』原稿募集

内容は、何でも構いません。季節の紹介、地域の報告、活動の自慢の写真も大歓迎です。詳しくは事務局までお問い合わせください。特設コーナーは、2ヶ月前に原稿が届けられる場合は、手書き原稿(カラー・白黒)・データ原稿(カラー・白黒)・デジタルデータ(カラー・白黒)のいずれでも構いません。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届けられる場合は、手書き原稿(カラー・白黒)・データ原稿(カラー・白黒)・デジタルデータ(カラー・白黒)のいずれでも構いません。

要領：手書き原稿(カラー・白黒)・データ原稿(カラー・白黒)・デジタルデータ(カラー・白黒)のいずれでも構いません。

編集後記

◆「吹く風に」 稲穂答える南無の声」四年前に京都旅行した折りに、知恩院の掲示板に書かれていた俳句だが、秋らしくなると何故か思い出す。如何にも京都らしく、誰の作品かは知らないが、私のなんとなく好きな句の一つとなった。猛暑から一転して秋の気配。どんな秋になるのか。政治も経済も南無の心境ではないが、秋とともに落ちつきを取り戻し、新しい方向が見いだせないかと只管願うのみ。「わが頭上、もつとも青し 秋の空」作者不明だが日本晴れに期待する。(K)

◆先日、富士山登頂を達成した。小学生の頃に一度父と登頂に挑んだが残念ながら九合目を目前に断念した。いつかは登頂してやろうと思っていたが、いつの間にか三十年も経ってしまった。今回、登頂を果たして心の片隅に小さく残っていた荷物を整理できたようで清々しい気持ちになった。これまで目標達成の成否などお構いなしに次々と新たな目標を立てて猪突猛進してきたが、それだけではなく、やり残したことを今一度掘り起こし整理整頓することも重要なのではないかと考えた。(GO)

◆毎日利用する通勤の乗り換え駅。日曜の朝に通ると、時を告げる美しい音色のチャイムが聞こえた。何時も見慣れたより、時間によっても随分違う顔を見せるものだ。小さな変化にも心動かされる、そんな感性をもっていたいものだが、近頃の忙しさにまかしていた。その忙しさも実りの時が近い。新しい「日本友愛協会」になったら、どんな顔を見せ、どんな活躍をするのか楽しみだ。(も)